

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800594		
法人名	有限会社 リリーフ武千巻 長閑村		
事業所名	グループホーム 長閑村		
所在地	三重県度会郡度会町小萩610		
自己評価作成日	平成22年8月27日	評価結果市町村提出日	平成22年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800594&SCD=320U>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 9 月 13 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当所はその名のとおり、長閑な自然に囲まれ、古民家を利用した家庭的な雰囲気の中、自分の家でくらししているように居心地よく穏やかな日々を送って頂けるように心がけている。又、終末期ケアにも積極的に取り組み、安らかな最期を看取らせて頂いている。地域密着型となって5年目を迎え、意識して地域との交流を図った結果、住民からも認められる存在になったと感じられる。今後も地域と一体となり地域に根ざした事業所でありたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然の山野に囲まれた古民家を利用している。ホーム名の長閑村ののんびりと、心が落ち着いてのんびりと、心身ともに安定した穏やかな生活が送れるところである。また、地域とのかかわりを大切に、積極的に交流を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者はミーティング時に理念である地域でのかわりを確認しつつ、地域密着型サービスのあり方を共に話し合い、実践につなげるよう取り組んでいる。	ミーティングなど折りがあれば理念を確認し、地域密着型サービスをともに話し合い、利用者の支援に努めている。又、基本理念と運営方針を玄関に掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。地区との共催で開いた夏祭にも多くの住民の参加があり、楽しい時間を共有することが出来た。	地域の人が野菜などの差し入れに訪れたり地域の行事(夏祭りなど)を共同で開催している。又、防災訓練にも参加をしてもらったりして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催の認知症サポーター養成講座や介護予防教室の講師として、認知症の人の理解や、支援の方法を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、警察官、民生委員、区長、老人会会長等各分野からの出席を得て、事業内容や、改善計画を報告し、それらに対する評価や意見を取り入れて、地域密着型サービスの向上に活かしている。	概ね3ヶ月に1回開催されている。会議では入居者・職員の状況や行事の報告をし、事業所の運営などの理解を得るように努めている。	会議の目的を理解し、今後は2ヶ月に1回開催されるよう努力していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者には運営推進会議への出席をはじめその他連絡を密にしており、情報交換や指示を仰ぐなど協力関係を築いている。	運営推進会議への出席や事業所の職員が、町主催の「わいわい塾」での介護予防講座の講師を努めたりして町の担当者と交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合い実践している。ただし、やむを得ない場合のみ、同意書をとり必要最低限行うこともある。玄関、縁側は夜間以外常にオープンである。	身体拘束については管理者および職員は理解をし、利用者の支援に取り組んでいる。又、夜間以外は玄関などには一日中施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で勉強会を持ち、虐待防止法について学び、十分理解している。職員は常に穏やかに接しており、事業所内での虐待は皆無である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在その制度を必要とするケースはないが、資料に基づき、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には十分な説明と出来れば施設見学を行って頂き、不安や疑問を尋ね理解、納得の上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員と入居者やご家族が遠慮なく何でも話せる雰囲気を中心としており、それを運営に反映させている。又外部への相談窓口も玄関や重要事項説明書に明記してある。	家族の来訪時や家族会(年1回食事を開催)の時に意見・要望などを管理者が聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者及び管理者は同一敷地内に居住しており、職員といつでも話し合えるため、意思の疎通や意見交換は十分行われており、反映することが出来る。	月1回のカンファレンスや日々の申送りの時などに管理者は職員の要望や意見を聞くなどして対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や勤務状況を把握し、給与水準の見直しをするなど、やりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内でも定期的に勉強会を行っており、外部の研修会にも順次職員が参加し、他の職員に伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとは利用者を含め相互訪問や合同の行事を企画し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の為、本人からの聴取は困難な場合があるが、出来るだけ思いを表出できるよう、正面に向き合い、ゆったりとした時間を持つよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、不安なこと、求めているものを十分理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか事前に話し合い、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける時点ですでにグループホームへの入所を希望されている場合がほとんどであるが本人や家族の状況、求めている内容をよく聞き、本当にグループホームへの入所が適切であるかを見極め、助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側という意識を持たず、一つ屋根の下で共に過ごす家族という思いで、年長者を敬い生活している。昔のことわざやわらべ歌など教えられることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用の様子を随時家族に報告し、喜びは分かち合い、気がかりなことは共に解決方法を考える等、家族の思いに寄り添いながら、一緒になって本人を支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幼馴染の友達や、一緒に会社勤めをしていたころの同僚が尋ねてきてくれたり、以前よく利用したスーパーマーケットへ職員とともに買物に行き、親しい方に会うなどして喜んでもらっている。	利用者の馴染みの方が訪れてくれたり、以前よく買い物に利用していたスーパーマーケット・美容院に職員と一緒に出かけたりして、利用者がこれまで大切にしてきた思いが継続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症レベルに差があるためコミュニケーションがとりにくいケースもあるが、職員が仲介役となり孤立することなく関わりあい支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は見舞に行ったり、今後についての相談や、情報提供などを行っている。又、在宅復帰後は担当ケアマネジャーと連絡を取りフォローアップに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中でよい信頼関係を築き、何でも話してもらえる環境作りを心掛けている。自分の思いや希望を言えない利用者には、表情や態度などから把握するように努めている。	日常のかかわりの中で、利用者の思いをくみとる事に心がけている。希望としては「野菜づくり」が多く、出来るだけ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りのほか、入所前の病院や施設から情報提供してもらったり、本人とのコミュニケーションの中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	受け持ち制を取り入れ、職員が自分の受け持ちの入居者に対しては特に細かく、内面的な部分まで把握するように努め、他の職員に伝えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人から意見やアイデアを得ることは難しいが家族や職員と課題やケアのあり方について話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。	月1回のカンファレンスや申し送りのときなど、職員の意見も聞き随時見直しをしている。介護計画は3ヶ月毎に見直しされ家族にも連絡し承諾してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は実践の記録だけでなく介護者の気づきや本人の受け止め方を利用者の言葉で記録し、皆が情報を共有して介護計画を見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護職である管理者が常駐しているため、24時間の健康管理、急変に対する的確な処置も可能であり、終末期の対応も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けられるように、民生委員や区長、近隣住民の方々と連携をとり支援して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人、家族の意向を大切にし、かかりつけ医に継続するケースもある。協力医療機関とは信頼関係を密にしており、定期的な受診のほか心配事がある場合、すぐに相談できる関係にある。	希望があれば入居前のかかりつけ医に継続している。協力医療機関での受診は職員(看護師が2名いる)が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職である管理者が同一敷地内に居住しているため介護職は入居者の情報や気づきを随時報告し、利用者に適切な対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に提供し、退院後に関しても、関係者や家族と話し合い、情報交換や相談に努めている。又本人が安心して治療を受けられるよう、たびたび見舞にゆき不安の軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の気持ちを大切にし、主治医ともよく話し合ったうえで、医師、看護職、介護職が連携し安らかな最期の時を迎えられるよう取り組んでいる。	終末期のあり方については利用契約書に指針が示されており、主治医・家族・職員でよく話し合って最後の時を迎えることができるように支援している。又、同意書も作成されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で看護師による勉強会を行ったり、最近消防署による応急手当法やAEDの使用法についての講習を受け、急変や事故発生に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を、さまざまな状況、時間帯を想定して実施している。前は消防署員の指導のもと、近隣の方々にも参加して頂き、災害時の協力体制を確認した。	年3回消防署や地域住民の協力もお願いし、地震、火災など昼夜を問わず利用者が安全に避難できるよう訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては尊厳を持った対応を常に心がけプライドを傷つけないよう言葉遣いにも注意している。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに気をつけ、トイレ誘導や入浴の時など言葉掛けに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志の表出や自己決定が困難な利用者が多いが職員側が受容する姿勢を示し一人ひとりの力にあった声掛けや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや希望を優先し一人ひとりのペースに沿って過ごして頂いている。好きなテレビ番組の時は就寝時間を遅らすなど柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や衣服など本人の好みに応じたおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の内容に利用者の希望を取り入れたり、自分たちで作った農作物を収穫し、食材にするなどして楽しんでいる。	運営者は、食事の楽しみを一番に考えており、自ら買い物に出かけている。事業所で採れた野菜や地域の方の差し入れもあり、利用者の好みの食事を職員が調理している。又、時々栄養士に献立を見てもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を正確にチェックしており、必要量が確保できているか確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた方法(義歯の洗浄、うがい、スワブ使用等)で口腔の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努めながら、時間的な誘導や、態度から尿意を察知し、声掛けをして自立に向けた支援をしている。	夜は「おむつ」の利用者もあり、昼間はリハビリパンツ使用の利用者の方もあり、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立内容や水分補給に留意し、体操など体を動かすことで自然排便を促している。排便の有無については確実にチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は個々の利用者の希望を優先している。中には入浴を好まない方もあるが、うまく誘導すると、あとは非常に楽しんで入浴されている。気候に合わせて回数も増やすなどの配慮も行っている。	週2回午前中の中の入浴となっているが、個々の希望を大切にし、入浴の回数を増やしている。入浴は一對一の対話の機会として、楽しみな時間として支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共用室は畳の為自由に横になったりソファでくつろいだり、又自室で休息するなど自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は利用者の状態に合わせて全介助、一部介助などにより服薬確認をしており、服薬後変化などがみられた場合は管理者(看護師)に報告し善処している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな利用者には時にはカラオケスタジオに行って皆の前で歌ったり、畑仕事の好きな利用者には野菜作りをしてもらうなど、楽しみ事を持って生き生きとすごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよいときは近所を散歩したり、暑さが厳しいときは車で買い物や外食、喫茶店行きなど希望や状況に合わせて外出支援を行っている。	日常的な散歩支援や、家族会で外食に出かけたり、病院(受診)の帰りに買い物をするなど外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に見合わせながら、希望に添えるよう職員が気を配りながら買物をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたり、手紙を書いたりできる方は少ないが、職員が介助して家族と交流が図れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家の為、開放的な間取りになっており共用室の障子を開けば縁側越しに緑の山野がひろがり、前を通る車も多くはない。季節感も感じられ居心地のよい空間が提供できている。	共用室の障子を開けるとすぐ前に自然(山野)が広がり、居間には大きなテーブル、ソファが置かれ、利用者が楽しく自由に一日の殆どを居間で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用室は畳で広く、ソファも置いてあり自由にくつろげる空間になっている。気のあった利用者同士で縁側でくつろいだり、庭でペット(犬)と戯れたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みに応じてフローリングに畳をひいたり使い慣れた馴染みの家具を置いたりして居心地良く過ごしている。	和室、洋間(新館)ともに利用者一人ひとりが使い慣れた家具が置かれ、冷房施設の無い部屋もあるが、楽しく居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古い民家の為、段差解消や手すりの設置など、バリアフリーとし安全確保と自立への配慮をしている。		